

## 令和7年度 第1回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

◆ 日 時 令和7年5月16日（金）10：00～11：30

◆ 会 場 教育研究所 第2研修室

◆ 出席者

|         |        |                    |
|---------|--------|--------------------|
| 座長      | 山崎 亨   | (小学校校長会長)          |
| 運営委員    | 米持 正伸  | (横須賀総合高等学校校長)      |
| 〃       | 三宅 豊   | (中学校長会長)           |
| 〃       | 浦嶋 愛   | (野比小学校 校長)         |
| 〃       | 新田 将之  | (久里浜中学校 校長)        |
| 〃       | 鈴木 史洋  | (教育指導課課長)          |
| 教育研究所職員 | 杉戸 美和  | (教育研究所長)           |
| 〃       | 宮原 充宏  | (教育情報担当課長)         |
| 〃       | 田山 雅也  | (主査指導主事)           |
| 〃       | 伊東 誠司  | (主査指導主事：研修・調査研究担当) |
| 〃       | 浅見 浩   | (指導主事：研修・調査研究担当)   |
| 〃       | 濱田 広治  | (係長：管理運営係)         |
| 〃       | 岸上 哲大  | (指導主事：ICT活用進担当)    |
| 〃       | 三ツ堀 幸正 | (主査：ICT環境整備担当)     |

他 指導主事5名

◆ 傍聴者 1名

◆ 次 第 (司会：教育研究所 主査指導主事 田山、記録：会計年度職員 棚橋)

1. 議事進行上の確認事項  
傍聴に関する確認
2. 開会
3. 所長・担当課長挨拶
4. 懇話会構成員、係長、主査、指導主事紹介
5. 座長、副座長選出
6. 議事：令和7年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
  - (1) 令和7年度教育研究所の基本方針、重点、予算概要（所長・担当課長）
  - (2) 研修・調査研究担当事業について（伊東主査指導主事・浅見指導主事・田山主査指導主事）
  - (3) 人権教育推進事業について（田山主査指導主事）
  - (4) 管理運営係事業について（濱田係長）

(5) ICT 活用推進担当事業について（岸上指導主事）

(6) ICT 環境整備担当事業について（三ツ堀主査）

7. 連 絡

8. 閉 会

[資 料]

1. 教育研究所条例
2. 教育研究所運営に関する懇話会設置要綱
3. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
4. 令和7年度 教育研究所「要覧」
5. 令和7年度 予算概要
6. 令和6年度 成果と課題

---

◆ 議事録

1. 開会（進行：田山）

2. 教育研究所長・教育情報担当課長あいさつ

3. 議事進行上の確認事項（進行：田山）

教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領

傍聴者1名

4. 議事：令和7年度教育研究所事業報告についての説明及び質疑

- |                        |          |
|------------------------|----------|
| (1) 令和7年度教育研究所の基本方針・重点 | 杉戸・宮原    |
| (2) 研修・調査研究担当事業について    | 伊東・浅見・田山 |
| (3) 人権教育推進事業について       | 田山       |
| (4) 管理運営係事業について        | 濱田       |
| (5) ICT 活用推進担当事業について   | 岸上       |
| (6) ICT 環境整備担当事業について   | 三ツ堀      |
| (7) 質問・意見等             |          |

【山崎議長】：

これより質疑応答に入ります。質問を受け付けますので、質問がある方は挙手をお願いいたします。

【米持校長】：

様々ご説明ありがとうございました。私から何点か質問と、それから一応意見も交えてもよろしいですか。

【山崎議長】：

意見はこの後に分けて行いますので、最初に質問からお願いします。

【米持校長】：

最初に研修のところでお話をさせていただきます。事前に成果と課題を読ませていただきまして、その３ページにありました人権教育の課題で一つ目のところです。教員の人権意識が子供たちの人権意識に大きく影響を与えるというくだりのところにつきましては、私も現場で仕事をしており、まさにそうだなというふうに感じております。このことは、人権担当者の方の研修で伝わっていると思いますが、やはり先生方に広く周知していくという部分も考えながら担当者への研修を行っていただけたらと思っています。具体的には、人権教育を行う教員自身の人権意識というのが如実にそのまま子供に伝わっていきますので、その点を教員が深く意識しながら普段の教育活動を行っていくところから、その人権意識を持ちながら教育活動をするということを強調していただけたらと思っています。子供たちは教員の背中を見ながら、日々教員の行動や言動を感じながら学んでいますので、そのようなところを教員自身が深く意識しながら行うということは非常に重要だと思っています。現場では時折ヒヤリとするような事態が起こっているのは、どこの学校でも同じだと思います。少しでもよりよい教育環境を作る上でも大事ななことかと思っています。そしてもう一つ先生方に意識していただきたいのは、対子供だけではなく、教員同士の会話の中でも相手を意識し、お互いに尊重し合うような会話や行動をとるべきだということもぜひ強調して伝えていただきたいと思います。そのような研修をしていただけると横須賀市全体として、先生方の人権意識というのが向上していくのではないかと考えていますが、その点についてお考えを伺えたらと思います。

次に理科教育の研修についてです。これまでに私もこの会議に３年連続で参加させていただき、理科教育の部分については、高校で見えますと理科を苦手とする生徒が多いという現状もありますので、ぜひ小中学校で理科にしっかり馴染んでいただき、理科の楽しさもわかっていただくような部分が必要だと思っておりました。研修はこれまでの成果や、和７年度の取り組みなどを見ても、これまで私がお願いしてきた、例えばコアサイエンスティーチャーの活用の研修などもきちんと盛り込まれていますし、初任者研修と兼務とおっしゃっていましたが、理科室の安全な管理や運用の仕方について、これらが基礎となって理科の授業で進んでいくと思います。特に理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法の研修においては、本市のこの教育研究所にある理科室というのは、まさに私も初任のときに

あの理科室を見て、「理科室はこういうふうになればいいんだ」とぼっと見てわかりました。だから見た目で理科室の形というか、その備品の整理の仕方や薬品の整理の仕方、そしてどういう配置にしておけばよいか、普段はどういうふうに整理しておけばよいか、どのようなものを使って整理をしていくとよいか、如実に見た目でわかるわけですので、常に教育研究所の理科室が横須賀の理科室の見本であるというような状況を作っておいていただけると大変ありがたいと思っています。そういったことも研修の中で、ぜひ先生方に伝えていってほしいと思っていますので、そのあたりのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

それから本年度の研修で、研究成果の発表でチャレンジ研究にも焦点を当てていただけるというお話がありました。本校には全日制と定時制がありますが、定時制のほうはチャレンジ研究を進めております。ぜひ定時制の研究発表、具体的には11月6日の教育課程発表会になるわけですが、そこに多くの中学校の先生に来ていただけないかと思っています。中学校の先生方の勤務時間外になってしまうので、難しさがあるのは承知しています。しかし、本当にボランティア参加になってしまうかもしれませんが、定時制は中学校以前で不登校をしていた生徒が入学者の約半数います。その子たちがしっかりと学校に通って勉強している姿を、中学校の先生がご覧になっていただきたいと思うのが一つです。やはり人間は節目があって、何かきっかけがあって変わる部分もありますし、不登校を克服したり改善したりする一つの事例というふうに思っています。同時に、中学校の先生が来てくださると生徒がとても喜んでいきます。いろいろ会話が弾んだりして、定時制の生徒にも勇気を与えているというような現状もありますので、そういう取り組みを教育研究所側からも支援していただけないかと思っています。いろいろな研修に先生方がいらっしゃると思うので、「こういったこともあるからどうですか」というようなことを伝えていただけると大変ありがたいと思っています。

続いてまた研修の話ですが、本年度の研修の計画の中にも、横浜国立大学の附属学校の先生が講師となって研修を行う場面が二つありました。この事も非常に大切なことで、本市の代表の先生が横浜国立大学附属学校に出向しているわけです。5年なり6年なりという期間を経て、また本市に戻ってきてすぐその研究成果を還元していただきますが、5年後6年後まで待つのではなくて、こういうふうに今実践していることを積極的に横須賀市に伝えていただくことは、とても大切なことだと思います。これはぜひ続けていただきたいし、さらにこれらの繋がりを深めるような形で来ていただくだけではなく、こちらからも附属学校の研究発表会等に派遣していくような、そういう取り組みも充実していただければというふうに考えているところです。この横浜国立大学との連携に附属学校という言葉が出てきませんでしたが、実際に派遣し出向していただいて戻ってきていただいてということをしているわけです。ここをぜひ研究所でも、活用するということができると考えていますが、この辺についてのお考えをお聞かせいただけたらと思います。

最後に教育情報ですが、本年度中に総合高校のネットワークの増強をしていただけるということで、大変ありがたく思っています。現在1ギガ配線ですが、現状22年前に開校し

て以来全日制の1人1台端末の活用は非常に進んでおりまして、授業中に使っていると、1ギガでは止まってしまいます。インターネットの検索をすることもできませんが、もう一つ、自分の作ったデータを自分の個人フォルダーに保管するだけでも時間がかかってしまうという状況です。そういう状況を10倍の10ギガ配線にすることで、これは非常に改善してもらえるとというふうに大変期待しております。子供たちからもそういう声が上がっているのです、ぜひこれができるということを、子供たちにも伝えながらますます活用を進めていけるように、本校でも教育内容の充実を図っていきます。教育研究所ではこのように環境を整えていただいて本当に大変ありがたいので、この件はもう質問ではなく、「ありがとうございます」という意見だけになってしまいますが、今後も様々ICT環境を利用した教育というのは進展していくと思いますので、本校も進展していく中で、その進展に合わせた教育をどんどん積み上げていきたいと思っています。その点については今後も教育情報担当と相談させていただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

【山崎議長】：

はい。では今の件で各担当からお願いいたします。

【田山主査指導主事】：

よろしくお願いいたします。ご質問いただきありがとうございます。今いただいたご質問の中で、人権の研修に関する部分は私田山から、その後理科については浅見から、研修におけるチャレンジ研究の参加と国大との連携については伊東からご回答させていただきますのでよろしくお願いいたします。

では始めに人権研修につきまして様々ご意見等もいただきありがとうございます。「子供の人権感覚を涵養するためには、まず教員の人権感覚を養わなければならない」というのは、私が人権担当になって県の人権教育の担当の主幹主査から言われた言葉です。そのことについては、これまでずっと人権教育担当者研修会の中で参加する先生方に伝えさせていただいているところです。その中で人権教育の難しさというところもありますが、先生方がその知識を覚えるだけでは人権感覚というのは磨かれていかないと考えています。研修の中で大事にしているのは先生がいかに気付くか、というところを大事にしています。特に今、アンコンシャスバイアスということが言われています。自分が知らない間にバイアスをかけていて、例えば男の子はこういうものだとか、女の子はこういうものだとか、そういったところが誰にでもあるとは思いますが、それが先生方自身で気付けるような、そういった研修をさせていただいております。また研修の中では、人権教育はヒドゥンカリキュラムと言われるように、こちらが意図してなくても、子供たちはそれを見て、先生が言った言葉遣いなどは全て伝わってしまうものだということもお伝えさせていただいて、普段から子供たちだけではなく、教員同士や、学校全体としての人権教育を推進していくという意識を持ってくださいというところを、研修の中では伝えさせていただいています。またその周知というところでは、担当者研修に参加した先生にはお願いしているところですが、また訪問研修等も活用していただきながら、教育研究所としても学校にそういった感覚を、ぜひ広めてい

きたいと思っておりますので、ご活用いただけたらと思います。私からは以上です。

【浅見指導主事】:

理科についてご説明いたします。ご質問ありがとうございます。横須賀の見本・手本となるように研修でどのように活用しているかというところですが、まず学校事故事例については、今年も他地域で硫化水素の発生による事故、救急車を呼んだという事故がありました。こちらについても初任者研修、理科基礎研修の中で言っておりますが、一括全部駄目とするのではなく、なぜ駄目なのか、どうしたら改善できるのかというところを、受講者同士で考えさせています。例えばカセットコンロがひっくり返って火傷した事例に、なぜ起きたのか、どうしたら防げるのかというのを、子供の姿をイメージして、その未然防止はどうしたらよいかというのを大切にしながら、研修の中で扱っております。

続いて備品の整理についてですが、教育研究所は写真付きで、例えばアルコールランプやメスシリンダーの写真をつけて格納しています。それを真似した学校もあります。そちらも校長先生にも許可いただいて写真を撮って、研修でなるべく多くの学校に真似してもらえるように啓発しております。薬品につきましては、研修だけではなく、理科の教科総会4月の頭でもアナウンスをして、度あるごとに薬品の管理については周知しているところになります。今後も理科の実験中の事故等が防げるように、啓発をしていきたいと思っております。以上です。

【伊東主査指導主事】:

ご質問ありがとうございます。まずチャレンジ研究、横須賀総合高校の定時制の研究に関することについてお話をさせていただきます。本年度はフロンティア研究校以外のチャレンジ研究の学校にも訪問させていただきます。フロンティア研究には、ある程度の期間で学校として継続性を持って取り組んでいるというところで、研修に参加をさせていただいていましたが、やはりチャレンジ研究でも継続して研究していることや、学校の特色を生かした形での研究というのは数多くある我々の方でも捉えておりますので、受講者自身が年間テーマや小中一貫教育のような視点を持って、選択肢を広げられるよう設定をしております。そのような中では米持校長先生からお話いただいたように、横須賀市の児童生徒たちの次の姿を見ていくというような視点も必要かと考えておりますので、研修受講者にはその旨を伝えさせていただきながら、できるだけいろいろな学校を参観して欲しいということでお伝えをさせていただきたいと思っております。定時制の参観ということになりますと授業時間が勤務時間外となるとは思いますので、教職員課と服務の関係を確認しながら、どのような形で参加できるかというところを確認しながら進めていきたいと思っております。

2点目が、「附属の先生方を講師」についてお答えをさせていただきます。研修講師にしましては10月から11月ぐらいを目途に、次年度の研修講師を選定させていただいております。もちろん著名な先生方というようなところもありますし、我々も講師の選定をする中ではやはり附属学校で横須賀市から出ている方というようなところでも話題には上がっております。もちろん横須賀の実践というところで、市の先生方が頑張っている姿を研修講

師としてお招きして見せたいというところと、あとそれぞれの派遣されている講師の先生方も、やはり横須賀市で還元したいというような思いも持っていると思いますので、その辺の思いを汲み取りながら、できるだけ横須賀市に関わっている先生方というところで、講師の選定を進めていきたいと考えております。また、附属学校との連携以外でも横浜国大との連携ということで、大学の講師の先生をお招きしたりであるとか、そういうところで研究所は繋がりを持っている部分がありますので、各学校からのニーズを聞きながら、国大と関わっていただけたところをお伝えしながら今後も連携を図っていきたいというふうに考えております。以上です。

【山崎議長】：

ありがとうございました。それではこれより先は質問意見を合わせて取り行なって進行していきますのでよろしくお願いいたします。では他にありましたらどうぞ。

【三宅校長】：

私も前年度からここに参加をしているので、前年度からもお願いも含めてお話をさせていただきます。まず、今日最初に杉戸所長から中学校職員の経験年数 10 年未満が 46%いるというようなお話を伺い、確かに本校でも若い先生増えたという感じでいます。各中学校の状況を聞くと若い先生が増えたのと同時に、60 を超えた先生も 70 代の先生も、実際には現場で頑張っていられるような状況があることは事実です。しかし実際にそのすごいバイタリティを持った先生方でも、やはり時代が違うところで活躍されているというところもあり、ICT となったときにどうしてもひるんでしまったり、あるいは「使わなくても大丈夫だ」と少し強気なご意見があったりというところもあるので、ぜひ年齢を超えて受けてくださっている方々でも簡単に使える ICT のような研修をしていただいて、それをまた子供たちに還元できるような形をお願いできればというのは、前年からも引き続きぜひお願いをいたします。

電子黒板に関しては個人的な意見になりますが、昨年の夏から入りまして、本校では ICT を使っていこうというところと、電子黒板が入ったのがとてもよい状態で進んでいるので、そこに関しては本校で言うと、年齢の上の教師も電子黒板を何とか使って、写真を映し出したり、大きくしたり小さくしたり、ペンの色を赤や黄色に変えたり、バックを変えたりというところは、普通に使えるようになっているので、やはり若者も使うし、みんなが使っているとこれだけ進んだなというのは、まだ 1 年経っていませんが、感じています。ですので、そこも含めて元気な年配の方々が楽しく ICT を使えるようなところの研修をお願いできればと思います。

同時に昨年、学区の小学校の校長が校長会長だったので一緒に話をしているのですが、小中一貫について、お陰様で本校は鶴久保小・豊島小と校長が 3 年以上ずっと変わってないところなので、かなり進んでいます。その中でやはり小学校に電子黒板が導入されると、先生方同士の研修も深まるというのもあり、ぜひ小学校高学年でも構わないので、入れていただけるとそういう小中一貫の研修にも繋げられるのではないかと感じるので、入れるのは研

研究所にお願いするものではないかもしれませんが、働きかけていただけると嬉しいと思っています。

最後に人権について先ほど米持先生からお話ありましたが、人権感覚が怪しい人がいますが、そういう方は研修となると、悉皆研修であっても参加しないこともあります。特に年齢の上の人たちに多く見られます。先ほどありましたが、令和6年度は訪問研修で4校、7年度はまた3校しかないというようなので、ぜひ来ていただいて、直接話をさせていただきませんかということをととても感じたので、もしかしたらこれからお願いに上がるかもしれませんのでよろしくお願いします。

【田山主査指導主事】：

人権に関してはぜひよろしくお願いいたします。本年度は3校ですが前年度も最初のこの段階では確か依頼が1校で、その後に入ってくるということが多いので、本年度もそれが見込まれているかなと思います。ぜひご依頼をお待ちしております。

ご質問がありましたところでは、ICTの研修についてはこの後岸上から、小学校の電子黒板の導入の見通しについてわかっている部分があれば三ツ堀からお話いたします。

【岸上指導主事】：

ご意見ありがとうございました。年配の先生方のICT活用もそうですが、年配ではない方もとても苦手意識を持たれる方は少なからずいらっしゃるのかなというところで、15ページの要覧に書いてありますパワーアップ研修講座、そして夏季研修はICT活用実践研修講座のミライシードGoogleのアプリ活用研修を行います。こちらにつきましても基礎の基礎、使い方とかChromebook開けて、そしてこのミライシードにアクセスして、ここにログインしてというところから丁寧に説明するということと、パワーアップ研修講座で言えばオクリンクプラスを4回実施し、そしてドリルパークを1回ということで、何度も同じ内容が含まれた研修を重ねて行うということと、あとは各研修がオンラインで始まっていますが、夏季研修を行う際に、操作に不安のある先生方につきましては、研究所に来ていただいて私も指導主事がサポートしながら、実際に近くにおいて研修ができるような体制をとっていますので、ぜひ参加していただければと思いますので、発信をお願いいたします。ありがとうございます。

【三ツ堀主査】：

電子黒板の部分につきまして、ご意見いただきありがとうございます。中学校で活用していただけているということで大変嬉しく思います。小学校につきましても、中学校への接続という意味で高学年からがいいのか、もしくは地域ごとがいいのかなど、そのあたりを教育委員会の中でもよく検討いたしまして、予算要求を次年度以降に向けて進めていきたいと考えております。

【山崎議長】：

では他に質問ご意見ありましたらどうぞよろしくお願いします。

【新田校長】：

余談ですが、電子黒板の使い方で思ったのは、ショートホームルームや朝の会で、教員が今日一日の予定を書くメモがあります。それを教員が掲示して「今日の1日は・・・」など説明するのですが、それを書いたのを職員室の外の棚に置いておく、それを生徒が持っていく、電子黒板で映す。そしてそこにペンで書いたりして、何でしょう、主体的にショートホームルームをしているというか。そこに書き足していくとか、あとはクラスルームを使って表現させることもしているので、授業以外の活用も結構面白いと感じました。逆にそこに教師が「駄目だよ」というよりも、「こんなアイディアあるんじゃない」と楽しみながら使う。授業ではないところで使うのは楽しいのだろうと思いました。引き続き整備については、小学校1年生などいいのではないかと思います。お願いします。

要望というか意見というか。まず、ICTの環境整備のほうで、教員の校務機のアクセスポイントを増やしてほしい。職員室しか通らないと、支援に関わる情報をみんなで突き合わせていく支援会議が、印刷したものでしかできない。これは非常に厄介で、そもそも子供たちのデータベースがないので、それぞれプリントアウトして持ってくる。非常に危ないし時間がかかる。不登校の問題とか絡めて言えば、その場でこの子どうなのという情報の突き合わせから始めるのですが、データがある程度サーバーの中に入っているとよいと思います。本当はカルテとかデータベースで欲しいので、そういうのがあるとよいと思います。あと我々の働き方の感覚で言うと、メールのデータサーバーをもっと増やして欲しい。1人1人の容量があるかと思いますが、一杯になったらすぐ捨てなくてはいけません。いろいろなメールに添付ファイルが入っているので、200メガは小さいと思います。

次に研修の部分ですが、質問です。平日の研修の時間は、短くないですか。平日の集合研修の時間は3時半からとか2時半からとか。というのは、その研修だと一方的に話をスキルやマインドを変えていくだけで終わってしまうのではないのでしょうか。例えば行政市役所が行っている研修は長いと思います。半日とか。そういう研修を行っていく必要があるのではないかと思います。県の総合教育センターもっと長いと思います。今までの経過からすると、学校に負担をかけない、教師が、OJTで行っていったほうがよいからと、集合研修の時間を短くしていったと思うのですが、例えばグループワークやワークショップをやりながら、技術を身につけていく。スキーで言えば何回リフトに乗ったかだと思います。研修で学んだことは、学校でもう1回やらないと身につかないのですが、多くの教員は聞いただけで終わりになって、だんだん時が経つと忘れてしまうので、研修効果が下がっているように感じます。もう少し長い研修を持てたら指導主事の皆さんにとってもよいのではないかと思います。これは質問です。短いと思っていないかと。

それから米持校長先生も三宅校長先生もおっしゃった人権意識のところとの関係で、心理的安全性を確保するということと言うと、職場の心理的安全性が確保できていなければ、子供たちの教室が居心地のよい場所には絶対ならないし、表裏一体だと思います。そういう研修がもっと増えるとよいと思います。もう一つが、様々な教育課題です。20年前の指導

の必携と今の指導の必携を比べると、仕事が多くなっています。それはそのまま学校に行っていて、学校はそれを処理して、目の前の子供と目の前のスタッフと地域に合わせて、混ぜながらカリキュラムとしてマネジメントしていきませんが、その土壌としての心理的安全性が確保された職場づくりというのが学校経営の中心になってくるのではないかと思います。それがなくて教室になると、さっき人権感覚の乏しい教員の話もありましたが、その研修がどのあたりにあって、どれぐらい時間を確保されているのかというと、もっと長い時間が必要になってくるのではないかと自分の体感的な感覚で思います。併せて不登校の子たちも関連してくると、今中学校で不登校になっている子供たちの学力について我々は学習の専門家だから学力についてアセスメントをします。アセスメントに応じて不登校の子への対応をどうしていけばよいかという研修を入れていったほうがよいのではないかと思います。多くの子がやはり学習につまずいている。そこに正面から向かっていくような場面が少ないし、教員もそのアセスメントをする能力があまりない。それを入れていくとよいのかなと思いました。とても丁寧な説明でよくわかりました。これだけ系統立てて研修にしても環境整備にしてもされているので本当にありがとうございます。以上です。

【田山主査指導主事】：

ご質問ご意見ありがとうございます。人権のところに関しまして心理的安全性、職場の心理的安全性をどう確保するかというところ、本当に大きなところだと思います。人権教育担当者研修の中でもその点をお伝えさせていただきますが、やはりそれだけでは足りない部分というのは多々あると思います。そのあたりで研修全体を見て、本年度を含めて3年間グロースコーチングの方に傾聴を含むコーチングという形で、学校で安心してコミュニケーションが取れるような研修を行っています。その他にも学校の心理的安全性に関わる場所では、人権課題として性の多様性というところも課題として取り上げられているところで、そのあたりについても教育課題研修等で研修を行っているところです。人権教育担当者研修だけでは伝えきれない部分については、他の研修、教育課題研修であったり学校づくり研修であったり、様々な場面で学校に周知しているところです。また今後もそのあたりについては、研修体系や研修の内容等を見直しながら、広げていきたいと考えております。

もう一点、不登校の学力のアセスメント等については本年度、長期研究員がそのことについて研究を行っているところです。前年度全国学調のデータの利活用というところで、長期研究員本間先生が研究されました。それを元に、本年度もその研究結果をもとに学調のデータ分析をどうしたらよいかという研修を考えています。本年度の長期研究員についても、心理的安全性の長期研究の結果を踏まえて、それをもとに学校にどのようにアセスメントして、不登校のアプローチとしてどういうことができるかというところは、またそのあたりを活用しながら研修等も計画していきたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。ICTの関係については三ツ堀主査から、研修の平日の研修の時間については伊東からお話します。

【三ツ堀主査】：

電子黒板の使い方については活用事例をご紹介頂いてありがとうございます。ぜひ授業以外にも活用を進めていただければ嬉しく思います。小学校についても予算要求を次年度以降に向けて進めていきたいと考えております。

校務用のアクセスポイントを増やすことについてのご意見いただきました。ありがとうございます。アクセスポイントは技術的には増やすことが可能でございますので、内部でよくどういった使い方が良いのか、このところ検討して進めていきたいと思っております。データベースについてですが、データの連携等を今後文科省も進めていくようにという方針でございますので、教育委員会内部で検討を進めているところでございます。できるような形にしたいと思っております。それと、メールサーバーの容量につきましては、予算に関係してきますので、獲得できるように頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

【伊東主査指導主事】：

平日の研修の時間ということでお話をさせていただきます。先ほどお話をさせていただいたとおり、主体的な研修というところで行くと、我々が知識を伝達するというより学校でそれぞれの皆さんが実践していることを持ち寄って、それについて課題について話し合ったり、次に向けての方針を話し合ったりという時間をとるのが、主体的であり、研修受講者の達成感とか満足度としても高いと考えております。そう考えるとやはり研修時間の長さであったり、回数であったりは、方法の一つとして考えております。ただし、働き方改革の観点等から、研修の回数が増えることによって学校からご意見いただくこともあるかと思っておりますので、こちらについては様々ご意見をいただきながら進めていく内容かと思っておりますので、また学校訪問した際に学校の先生方からご意見いただきながら検討していきたいと考えております。以上です。

【山崎議長】：

はいありがとうございました。終了時間も近づいてきておりますけれども、小学校教育研究会長の浦島先生お願いします。

【浦嶋校長】：

小学校の立場で2点お願いいたします。1点目は電子黒板についてです。私も先日の小中一貫で、初めて中学に行って電子黒板というものを見ました。「こんなふうに使っているのだな」ということで非常に素晴らしいと思ったのですが、質問です。先ほど「検討してまいります」ということでしたが、具体的にはまだ見通しは全くないということなののでしょうか。大体いつごろかということがもしわかれば教えてください。

2点目です。小学校としては今1人1台端末の持ち帰りのことが非常に小学校校長会で話題になっております。持ち帰りで何ができるのか、またその持ち帰ることの良さなど、そういうことについての情報を研究所からもっとたくさん発信していただきたいということは要望です。小学校の校長会、特別委員会のほうで非常にいろいろとそれについて調べたり、情報発信をしてくださったりしているのですが、私の感覚として、これは校長会でもいろいろ対応していますけれども、研究所のほうでもリーダーシップをとってやっていただくの

がいいのではないかという感想を持っていますし、そういうふうにいる校長会のメンバーもおりますので、今まで以上に持ち帰りについての情報発信をよろしく願いいたします。2点です。ありがとうございました。

【山崎議長】：

今の質問で、回答よろしくお願いします。

【三ツ堀主査】：

電子黒板につきましてご質問いただきありがとうございます。いつ頃からということで、単年度でいけるのかどうかというところは予算に関わってきますので、明確にお答えできないですが、次年度から予算要求をしていきたいと考えております。

【岸上指導主事】：

持ち帰りについてご要望ありがとうございました。市立校長会議の後に学校にも通知をさせていただきましたが、前年度パイロット校で坂本中学校と城北小学校で検証をしたものを、実践報告書ということで出させていただきました。それをもとにいつどの単位で、そしてどういった活用があるのかということをもとめさせていただきましたので、それを参考にさせていただくのと同時に、やはりこちらとしても教育指導課や支援教育課、教育政策課など各課ともたくさん話をして、どういった活用がされているのか学校での話を聞き取りながら、活用の好事例を随時発信していく必要があると思っています。その中で困っていること、困っているものが解消されたものなども各学校にあるかと思います。ぜひそういったものも含めて意見として取り入れて、発信をしていきたいと思っています。

【山崎議長】：

ありがとうございました。鈴木課長の方から何かありますでしょうか。

【鈴木課長】：

教育指導課が所管している学力向上の取り組みについて、もっと研究所と連携を図れればと思っています。本年度、先日第1回目の学力向上担当者会を開催いたしましたが、そこに前年度の長研に出ていた鴨居小の本間先生から、全国調査のデータ活用についてお話をいただいて、研修成果の還元ということをしていただきました。そういった形で少しずつ具体化をしていったら、まだまだ連携を図ってできることもあるので、今後も取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いします。

【山崎議長】：

ありがとうございました。最後に私からもお話をさせてください。二つあります。一つは先ほど田山主査から話があったのですが、イントラの学習指導案と、それから教育課程の提案資料です。もうこれが遥か10年以上前のものが網羅されているような形になっていますので、ぜひ早い時期にリフォームしていただいて、新しい今の教育課程に合ったものをご提示いただければと思っています。よろしくお願いいたします。

もう1点が先ほど浦嶋校長からあった1人1台端末ですが、研究所から情報をこれからも発信していただけるというお話はあったのですが、その中で今、校長会も非常にタイトな

日程で、市立校長会議でお話いただいた後に進めているところではあります。その中で一つ、ポケット Wi-Fi や充電コードの貸与というのが必要になってくる学校も出てくると思います。そうなったときの借用書とか、テンプレートみたいなのをどんどん発信していただくと、学校もそれを元に保護者等に説明したり送付したりすることができるので、その辺の文章的なもの、ぜひご対応いただけるとありがたいです。それと同時に、これから子供たちが端末を日常的に持って帰るようなシーンになったときに、学童に行っている子がそのまま家に帰らずに学童で何か作業をするとなったときに、そこでまたポケット Wi-Fi 等が必要になるのではないかと推測するので、そういった数なども今まで以上に確保できたらよいというところの思いを述べさせていただきました。

それでは活発な討議ありがとうございました。以上をもちまして議事を終了させていただきます。皆様ご協力ありがとうございました。